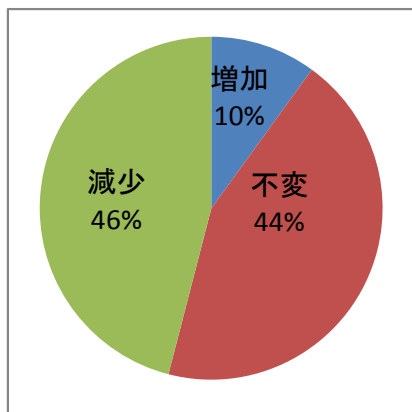


■ データから見た業界の動き

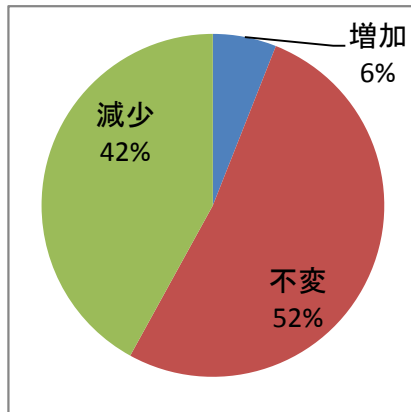
(平成24年8月分)

● 2011 / 8

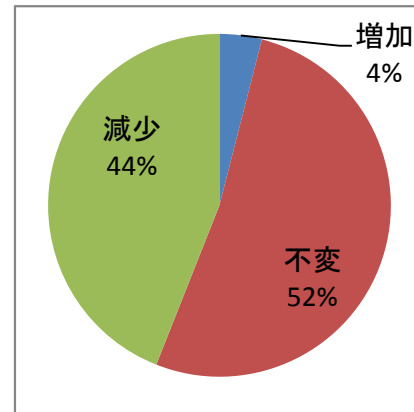
売上高(前年同月比)



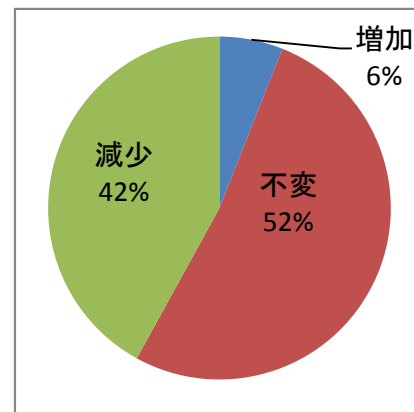
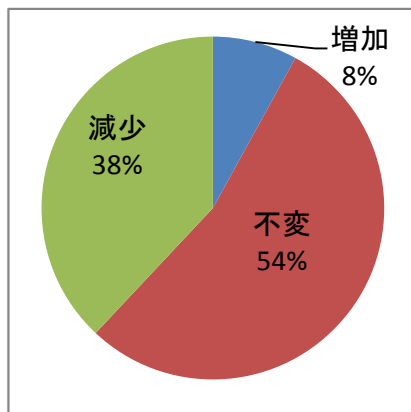
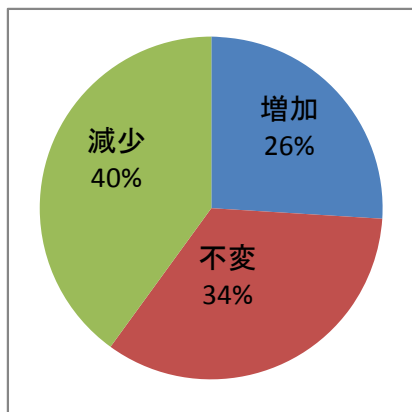
収益状況(前年同月比)



景況感(前年同月比)



● 2012 / 8



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値(好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2011/8	2012/7	2012/8	2011/8	2012/7	2012/8	2011/8	2012/7	2012/8
売上高	-30	5	-5	-40	-33	-20	-36	-18	-14
収益状況	-40	-15	-25	-33	-23	-33	-36	-20	-30
景況感	-45	-20	-25	-37	-37	-43	-40	-30	-36

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の8月の景況は、全業種のDI値が、売上高-14(前年同月比+22)、収益状況-30(前年同月比+6)、景況感-36(前年同月比+4)となった。業種別のDI値では製造業で、売上高-5(前年同月比+25)、収益状況は-25(前年同月比+15)、景況感-25(前年同月比+20)。非製造業で、売上高-20(前年同月+20)、収益状況-33(前年同月比±0)、景況感-43(前年同月比-6)となり、製造業においては全ての項目でDI値の改善が見られるものの、非製造業では、売上高は改善方向にあるが景況感のDI値がマイナスに推移しており、昨年を下回った。

DI値を前月比で見ると、全体では、売上高で4ポイント改善しているが、収益状況で10、景況感では6ポイントの悪化が見られた。

業種別の前月比では、製造業で、売上高、収益状況ともに10ポイント、景況感でも5ポイントの悪化となった。非製造業では、売上高で+13、収益状況-10、景況感-6と売上高でポイントを改善したが、景況感DI値は5ヶ月連続の悪化となった。

情報連絡員による県内各業界の8月景況は、エコカー補助金により昨年に比べ収益を大きく好転させた自動車販売業や震災により低迷していた宿泊業の回復基調が見られる一方、製造業、非製造業ともに今後の業況悪化などの先行きを不安視する報告が目立った。

その背景には、電気料金や燃料の高騰などを要因とする収益の確保難に加え、長引く景気低迷による消費意欲の減退が懸念材料となっていることが挙げらる。

情報連絡員からの業況報告でも、「電気代や燃料の高騰により収益を確保することが難しい。」「出荷量の減少や生産量の下方修正を行った。」「業況悪化による廃業や倒産への懸念」など厳しい経営状況が見られる。

■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	売上は、前年同月比102%。ギフト関係は98%と低調だったが、婚礼用食材及びこれに付帯した仕入食品が増加した。
食料品（洋菓子製造）	OEMは順調に推移したが、自社ブランド製品を主体とした夏用ギフトが低調のため売上は前年同月比98%。世界的な干ばつにより穀物相場の高騰やそれに伴うバターや食用油の高騰が懸念される。
食料品（製麺）	東日本大震災のあった昨年に比べると今年は夏祭りなども復活したため、例年並みに売上が戻った感がある。観光客向けの新製品開発が、必要と感じる。
食料品（菓子）	猛暑により土産品の菓子も含め販売不振。
食料品（ワイン）	今年は天候にも恵まれ、このままぶどうの収穫時期の9月中旬まで台風被害などがなければ、10年に1度の逸品のワインができると期待している。

繊維・同製品（織物）	夏のネクタイの売上はクールビズの影響で昨年までは落ち込んでいたが、この夏はデパートを中心に下げ止まった感がある。秋物の立ち上げが遅れている。ユニクロ等に見られる大量生産商品の動きが鈍くなってきた。山梨の織物産地への生産依頼の問い合わせは以前より増えてきたが、コスト面で停滞している。当組合でバーコード番号を取得し、これまで以上に積極的に催事等の物販に力を入れていきたい。
繊維・同製品（アパレル）	受注量及び受注単価も落ち込むことなく順調に推移している。
木材・木製品製造	新築住宅の見積もり依頼が減っている。
窯業・土石（生コン）	生コンクリートの出荷の既契約物件も徐々に終息を迎え、出荷量は減少し業況は厳しくなりつつある。
鉄鋼・金属(1)	電気料金の値上げにより収益が低下。自動車関連企業は7月にエコカー補助金の申請が終了したため受注量が低下した。半導体関連企業は、軒並み生産量の下方修正が行われている。
鉄鋼・金属(2)	去年は、計画停電等の影響で生産量が落ち込んだ。今年は、昨年よりも業況が悪化している。
一般機器	メーカーは海外へ生産地移転を進めるなかで、我々国内の受注先には生産能力の向上と高品質要求が続出している。
電気機器(1)	年々悪化して底なし沼に入った状態が続いている。
電気機器(2)	6～8月にかけて徐々に業況が悪化している。この状態が続くと廃業や倒産が組合員内でも起こる可能性がある。
その他(貴金属①)	主要な展示会も終わったが、昨年と比べ売上が減少している。

● 非製造業

卸売（塗料）	小売業界での売れ行きが良くない。
卸売（紙製品）	国内消費が低調。また、古紙輸出関連は中国をはじめとするアジア市場でも低調の上、領土問題等の影響もあり今後の見通しは不透明である。
卸売（ジュエリー）	消費者の購買力が上がってこないと業況は回復しない。8月28～30日まで東京ビックサイトで開催された「ジャパングジュエリーフェア2012」も、海外からのバイヤーの来場が少なく苦戦した企業が多かった。
小売（青果）	入荷量は増加傾向にあるが、大型店の広告宣伝等の影響により中小小売店の売上が減少傾向にある。
小売（食肉）	猛暑の影響で精肉部門はやや落ち込んだが、惣菜類が好調で売上をカバーした。牛肉はバーベキュー需要が落ち込み不振が続いているが、豚肉相場が例年より安価だったため収益が確保できた。

小売（水産物）	猛暑により飲料等の売上は増加したが、粗利が少ない上に電気料金の値上げ等による経費増のため収益状況は悪化した。
小売（自動車）	新型車輛の売れ行きが好調。また、8月はエコカー補助金の効果により昨年と比べ収益が大きく好転した。
小売（電機製品）	8月の県内売上は、前年同月比77%。商品別の前年同月比は、テレビ17%、エアコン128%、冷蔵庫121%、太陽光発電が14件、LED照明はやや好調である。猛暑により冷蔵庫、エアコンの販売が好調に推移し白物家電が地域店の経営を支えている。しかし業界全体では、海外製品や通信販売による価格競争が激化するとともに家電量販店の再編が相次いでいる。
小売（事務機文具）	低価格競争が続いているため収益に結びつかない。そのため、ここ数年自主廃業や倒産が増えてきている。
小売（石油）	北海油田の生産低下やシリアの内戦激化等を背景に、原油が高騰し元売りの卸価格が8月始めより9円程度値上がりした。併せて、県内給油所は6～7月の販売価格が元売り卸価格以上に値下げしていたため収益が悪化している。
商店街（1）	今年の夏は猛暑が続く集客や賑わいの創出に努めたが、来街者数は減少した。特に衣料品店における落ち込みが顕著で、先行きが心配される。
商店街（2）	今年のお盆は観光客も増え街も活気づいたが、物販においては買い控え傾向にあり飲食店における客単価も伸びなかった。
宿泊業（1）	8月は家族連れの観光客を中心に客足が伸びた。特に、ビジネスホテルを中心に売上増となり一昨年並みに戻りつつあるが、電気代や燃料の高騰により収益を確保するのが難しい。
宿泊業（2）	前年同月比よりは売上は増加したが、一昨年までの水準には未だ戻っていない。8月以前の売上の落ち込みが大きいと厳しい資金繰りを強いられている。
美容業	お盆後、入店客数が若干増えてきた。しかし、年々固定客が減少傾向にあり前年維持の売上を確保することが困難になってきている。
廃棄物処理（事業系）	景気低迷により企業からの廃棄物排出量が極端に少なくなっている。また、電気料金の値上げや燃料費の高止まりが経営を圧迫している。
廃棄物処理（産廃系）	法的に資格のない不適正な業者の横行や処理コストを抑えたい顧客の認識不足により不適正な取扱いが行われ、コンプライアンスに則り業を行っている業者の収益に悪影響を及ぼしている。
警備業	共同受注件数は増加傾向にあるが、収益には結びつかない。
建設業（総合）	受注工事の減少とともに、平成25年3月末に金融円滑化法の終了が予定され、建設業界では小規模の企業ほど資金繰りが悪化し、事業縮小や廃業等が増えてくると思われる。

建設業（住宅関連）	地域の工務店への住宅工事の引き合いが少ない。
建設業（型枠）	リーマンショック以降、国内の型枠大工が数万人減少した。山梨県内は民間工事に乏しく公共事業に頼りがちであるが、頼みの公共事業も減少している。職人不足から上がりはじめた型枠工事単価も、仕事の減少とともに再び下がり、秋以降不安を抱えている業者が多い。
建設業（鉄構）	売上高や受注価格が上昇している事業所が若干あるものの、業界全体としては弱含みで推移している。
運輸（タクシー）	前年同月比売上が減少している。社会全体が不安定なため、一段と消費が落ち込んでいる。
運輸（バス）	運賃の低価格競争が激化している。
運輸（トラック）	シリアの内戦を含めた中東の情勢不安による今後の原油価格の高騰が懸念される。